第43回 うつのみやこども賞だより

令和8（2026）年度　4回

市内５・６年生の選定委員さんたちが，月に４冊の本を読んで，年間で一番友達にすすめたい本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『ばんざい！ぼくらのフシギ島　悩んだら、いつでも来んね』

辻堂 ゆめ／作　南波 タケ／装画（主婦の友社）



令和８年　９月　６日

～読んだ本の感想より～

●島りゅう学をして，色々な個性のある主人公がどんどん成長していくのが面白かった。
●起立性調節障害について初めて知れた。留学している子たちは様々な悩みを抱えていることにおどろいた！「ふしぎ島」へ行ってみたい！
●涼が病気なんだなんてきづかなかったから，才津はすいり力がすごいと思った。
●涼がトマトを才津がきらいなことをときあかしてすごい。
●カヤックや，つり，トマトのしゅうかくの様子がいきいきと書かれていて，私も夫志木島へ留学してみたくなった。
●病気をかかえているのに「不良」という設定を無理してまで守った涼が，かわいそうだと思いました。
●美しい自然と食べ物があってぼくも行きたくなりました。物語に吸い込まれそうになりました。
●自然のすばらしさや力強さを感じた。また，友だちは，とても大切な存在だとあらためて思った。おひさまトマトがおいしそうだった。食べてみた～い!!

読めば愉快だ宇都宮 UTSUNOMIYA

宇都宮市立図書館
UTSUNOMIYA CITY LIBRARY

『マユ１２歳、鍛冶屋でくらしています。』

福田 隆浩／作　kei saito／装画・挿絵（あすなろ書房）

●さいごにマユが学校にいけることによかった。マユがずっとつくりたかったほうちょうをつくれるようになってよかった。
●マユがおじさんの仕事をみつめながら成長していっている姿がすごいなと思いました。
●主人公のマユが学校でいやなことをされていてかわいそうだと思った。
●おじさんと私がいっしょに勇気を出してそれぞれ取材，発表会へがんばるところに胸をうたれた。
●学校にいけない，いわば不登校のマユが，おじさんの鍛冶の仕事に興味を持つのが面白かった。
●おじさんとマユの会話を聞いていて，元気が出て，この本を読んでよかったなと思った。

『音符がいっぱい』

まはら 三桃／作　あわい／絵（岩崎書店）

●給食のパンを届ける理由が，お金のことじゃなくて休んだ子が元気になるためだと知って心があたたまりました。
●二度と学級崩壊させないためにがんばる彩加がかっこよかったです。
●最初はあまり仲がよくなかった５年２組が，音楽をとうして仲がよくなっていくのがいいと思った。
●最後，あさひはエーデルワイスのしきを上手にできてよかったなと思いました。
●初めは湊などが選ばれると思ったけれど，クラスで指導者にむいているわけでもないのにぼくをすいせんしたのかふしぎに思った。みんなで協力してできたことがすごいと思った。
●朝日とあやかのがんばりで最後，最高なえんそうができたところが良いと思ったし，森田先生のおわかれ会をしたところが感動した。

『風わたる街』

茂木 ちあき／作　おとない ちあき／絵（新日本出版社）

●伊織が須磨子やいろいろな人と関わることで新しい自分をつくりあげていく所が印象に残っています。伊織が家の仕事をやりながら勉強をこなすのがすごいと思った。
●家をなくしたり，家族をなくした子どもが，「きぼうの家」に行っていて，すごくびっくりしました。
●いろいろなことがおきてもめげずに先生になろうといういおりの気持ちがすごいと思った。
●私は明治ぐらいの時代の話が好きなので面白かった。